

建設技術展等の開催報告

雪国の魅力や課題を全国に発信 ゆきみらい2016 in 盛岡

国土交通省 東北地方整備局 企画部 企画課 企画第二係長 にしむら たかひと
西村 隆人
 施工企画課 計画係長 おちあい のぶゆき
落合 信孝

1. はじめに

『ゆきみらい』は北海道開発局・北陸地方整備局・東北地方整備局でリレー開催し、今回が31回目、東北地方では10回目の開催となりました。

今回は、過酷な冬期環境で培った東北の防災力と除雪技術力を弱体化させることなく、後世に伝承していく、また、雪国ならではの美しさ・魅力の再確認と、それを核とした観光情報の発信と潜在資源を発掘し、地域の再生・活性化を図ろうと、平成28年2月9日から2日間の日程で、『本州最寒地 雪国の絆 おでんせ盛岡』をテーマに、国体冬季大会に合わせて、盛岡市で開催され、シンポジウム、研究発表会、見本市、除雪機械展示・実演会の4つのイベントを開催しました。

2. ゆきみらいシンポジウム

開催日時：平成28年2月9日（火）

14：00～17：00

開催場所：マリオス 盛岡市民文化ホール

大ホール

来場者数：800名

ゆきみらいシンポジウムは、雪国や少雪地域のおかれている現状を踏まえ、地域の防災力、広域

的な防災力の向上、協力連携・交流の強化を図るため、克雪・利雪・親雪の観点から雪国の魅力、美しさ、地域の特性を活かした冬期観光についての情報発信を目的として開催されました。

シンポジウムは2部構成とし、第1部の基調講演では、観光庁 初代長官で首都大学東京 特任教授の本保芳明氏が『雪を武器に地方の時代のインバウンドに臨む』と題してご講演いただきました。

低迷している東北地方の訪日外国人旅行について、「雪を前面に押し出した新たなブランドイメージの創出や国際的なスノーリゾート整備が必要」と力説されていました（写真—1）。



写真—1 基調講演の様子

引き続き行われたパネルディスカッションでは、コーディネーターに岩手日報社 編集局長 川村公司氏、パネリストには、湯本温泉対滝閣 代表取締役 大澤幸子氏（いわておかみ会会長）、弘前市長 葛西憲之氏、気象予報士・防災士 鈴木智

恵氏、ニセコアドベンチャーセンター 代表取締役 ロス・フィンドレー氏をお迎えし、基調講演の本保氏にもコメンテーターとしてご参加いただきました（写真—2、3）。



写真—2 パネルディスカッションの様子



写真—3 シンポジウム会場内の様子

雪国の魅力、美しさ、地域の特性を活かした冬期観光をテーマに、雪に対する地域等の取り組みを紹介していただくとともに、克雪・利雪・親雪の観点から様々な提言をしていただきました。

特に弘前市長からは、「市民と協働した融雪など総合的雪対策で、持続可能なまちづくりにつなげる」とし、弘前型スマートシティ構想をご紹介いただきました。

鈴木氏からは、地球温暖化と雪に関し、「雪と上手く付き合うために、気象情報を味方にする方法」について、説明がありました。

大澤氏からは、豪雪地帯の課題に触れ、町民と自治体が協同して雪を利用した冬期観光について取り組んでいるとの紹介がありました。

ロス氏からは、ニセコの成功例を紹介していた

だくとともに、観光客の求めるもの、新しいものへの挑戦といった提言がありました。

3. ゆきみらい研究発表会

開催日時：平成28年2月10日（水）

9:30～15:15

開催場所：アイーナ会議室（3会場）

来場者数：700名

ゆきみらい研究発表会は、雪国に住む多くの人達が、安心・安全で快適な生活をするためには、雪氷技術開発・普及が重要であることから、この調査研究を行う技術者等の情報交換や交流の場として開催されました。

今回は、調査研究を行う技術者と一般の方々やNPOといった様々な人々を結びつけ、雪に関する情報を紹介・発信し、お互いに理解しあえる場を設けるため、次の3つのテーマを柱に開催し、44題の発表がありました（写真—4）。



写真—4 研究発表会会場内の様子

- 特定テーマ 「豪雪に対する緊急対応」
 - セッションⅠ 「冬期の道路管理と除雪・防雪技術、官民連携」
 - セッションⅡ 「雪を活かした冬期観光」
- ※論文は、東北地方整備局のホームページに掲載しています。

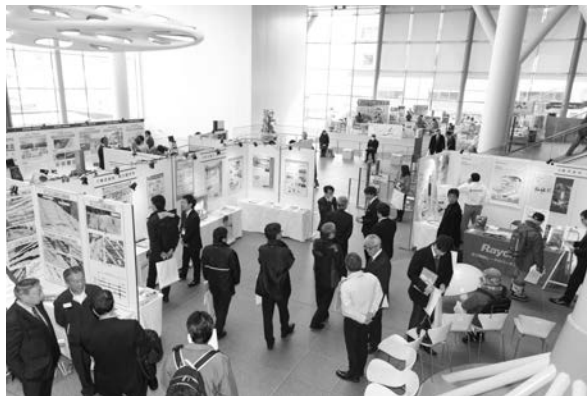
http://www.thr.mlit.go.jp/yukimirai_morioka/event2.html

4. ゆきみらい見本市

開催日時：平成28年2月9日（火）10:00～17:00
 平成28年2月10日（水）9:00～15:30
 開催場所：アイーナ4階 県民プラザABC
 アイーナ5階 ギャラリーアイーナ
 来場者数：1,500名

見本市は、雪氷技術や情報、東北に暮らす人々の文化・知恵などを、企業・団体・行政のブース展示により紹介し、情報交流・全国発信の場として開催されました。

今回は、国内の企業・団体、主催者の合計29ブースの展示があり、企業・団体ブースでは、全国の最新積雪寒冷対策技術等、広く雪や寒さの克服・利用に関する技術開発や企業の取り組みに関する情報発信が行われていました（写真—5）。



写真—5 見本市会場内の様子

主催者ブースでは、盛岡市が同時期に開催されている希望郷いわて国体冬季大会などの写真紹介、岩手県が「岩手まるごとおもてなし隊」による岩手の冬の魅力の紹介、東北地方整備局がインフラストック効果について紹介しました。

次期開催市である函館市は、北海道新幹線の開業を見据え、地域特性を活かしたまちづくりを進めている「函館市」の魅力を観光情報とともに発信していました。

5. 除雪機械展示・実演会

開催日時：平成28年2月9日（火）10:00～15:30
 平成28年2月10日（水）10:00～15:00
 開催場所：アイーナ脇 盛岡市所有地
 来場者数：1,900名

除雪機械展示・実演会では、除雪機械の最先端の技術を披露し、機械の技術革新や除雪事業の仕組みを理解していただこうと、近年では最多となる15企業・団体の出展で開催されました（写真—6）。



写真—6 除雪機械展示・実演会会場全景

展示会場内では、各社の除雪機械による実演も随時行われ、会場を盛り上げました（写真—7）。



写真—7 実演の様子

また、作業中の事故を防ぐ装置がついた除雪機械、全方位カメラを設置し除雪作業の安全性に寄与する機械などの展示がありました。

また、オペレータ席の試乗や来場した子供向けに建設機械カードを配付するブースもあり、天候にも恵まれ大盛況となりました(写真一8, 9)。

6. おわりに

今回の「ゆきみらい2016in盛岡」は、全てのイベント会場をJR盛岡駅西口に集中して開催されたことから2日間多くの来場者で賑わいました。

開催目的でもあった、少子高齢化や除雪の担い手不足などの社会情勢の変化に加え、近年の異常気象ともいべきゲリラ豪雪や今までさほど降らなかった地域での大雪などに対応した、冬期の防災と生活維持の方策への一助になれば幸いです。

来年は、北海道函館市での開催が予定されています。



写真一8 池内幸司 国土交通省 技監による視察



写真一9 来場した子供にもインタビュー